

# 「明日へ！神戸」 労働大臣杯 争奪第47回 全日本実業柔道団体対抗大会報告書

明日へ！神戸 労働大臣杯争奪第47回全日本実業柔道団体対抗大会は5月31日～6月1日の両日、神戸市須磨区緑台（神戸総合運動公園内）グリーンアリーナ神戸に男子118チーム（1～3部）826人、女子16チーム（1～2部）75人、計901人を集めて熱戦を展開した。今大会の特徴は初めて国際ルールを採用したことである。

初日行われた、男子第二部（28チーム）は一部から降格した東芝がダイコロを降して初優勝し、三位総合警備保障、日本道路公団とともに以上四チームが来季の一部入りを決めた。女子第二部（11チーム、三人

制）では塩谷建設と肥後銀行が1対1の末、代表戦となり、塩谷建設が「効果」を取って初優勝を遂げた。

最終日の男子第一部（11チーム）は旭化成が三連覇を目指す新日本製鐵を1対1の同点ながら内容勝ちで4年ぶり6度目の優勝旗を握った。

同第三部（79チーム）は初参加の二十一世紀エンタープライズが大末建設を4対1の大差で破り、早くも次年度第二部突入の「スピード出世」となった。

注目の女子第一部（5チーム）は5人制総当たりの結果、全勝同士のダイコロ対ミ

キハウスの大阪対決となり、気迫にまさるダイコロが、4対1の大差で初優勝を飾り、ミキハウスの3連勝を阻止した。

なお、初日の開会式で平成8年度年間最優秀選手として永野重雄杯がアトランタオリンピックク71kg級金メダルの中村兼三4段（旭化成工業）に、宮崎輝杯が同61kg級金メダルの恵本裕子3段（住友海上火災保険）に、それぞれ贈られた。

## 開会式

グリーンアリーナ神戸（メインアリーナ）に整列した精鋭一三四チーム。



開会式であいさつする松本甫副会長



開会式で歓迎の挨拶をする笹山幸俊神戸市長



平成8年度最優秀選手賞を受賞した中村康三・恵本裕子両選手



# 男子第一部

## 旭化成4年ぶり6度目の優勝

### 薄氷の一進一退

決勝の先鋒戦では、4月の全日本でベスト4入りし好調の新日鐵石田は勝負に出たがチャンスをつかめず、引き分け。波乱は中堅戦に入って一挙に起きた。全日本選手権大会3位の増地に対し、旭化成主将・下出の右内股が、うなる。増地耐えてからの左大内刈、小外掛は下出が返して「効果」となる。



4年ぶり優勝の旭化成チーム

「慌てるな増地、いまのでもいい、追い込んで追い込んで」(控え席で吉田秀彦ほかの声)更に後半下出、増地が場外近くで回り込もうとするタイミングを内股で「技あり」を奪う。増地奮然と小外掛で「効果」取るも及ばず。副将(阿南)の前に1点を「と」いう新日鐵(岡泉淳監督)の狙いは外れ、誤算を招いた。旭化成の筈原と新日鐵キャプテン(養父)ともに地元兵庫県出身、天理大では養父が2年上だ。しかし身長183cmの養父に対し、190cmの筈原は左内股で先手猛攻を開始、押され気味の養父まず「指導」を受ける。養父の右支釣込足に筈原ひざをつく場面もある。動きが止まり両者に「指導」で2度目の養父「注意」(有効同等)となる。形勢不利の養父ラスト5秒前、果断の大内刈で筈原の巨体を倒し「有効」の宣告。これで先刻の「注意」は相殺されて消え、筈原に付いた「指導」だけが残ったから養父執念と沈着の逆転劇。1対1。しかし内容は旭化成がまさる。大將戦は新日鐵が攻め、旭化成は引き分ければいい。開始30秒、岡泉弟の背負投に中村そのまま組み敷かれたが、ポイントの宣告なし。岡泉、なおも中村を抑えにかかると(新日鐵サイドから)「入った、入ってる」の声)上体は返つていても脚部は残っている。驚くべき中村の柔軟性を見た。ついに「抑え込み」の宣告なく、寝技の攻防解け、新日鐵は一太刀及ばなかった不運を喫いた。歴史に「もしも」はないと言われるが、旭化成は10月パリの世界代表二人が黒星を喫するところであった。薄氷を踏む思いの勝利だったことは間違いない。

## 久しぶりの優勝に感激

### 優勝監督コメント

旭化成・樋川 純監督

下出が取ってイケると確信した。まさか筈原が取られるとは……。みな堅くなっていたが、普通の筈原だったら、あんなことはない。優勝を意識したのでは？作戦としては前の方で1点取って後半を楽にしたかった。その通りにはいかない。相手オーダーは予想通り。増地以外は取りに行く作戦だった。繁昌もムードメーカーになった。下出は主将ということで本人も重責を担ったが、今回は初戦から日本道路公団に1-1とか、きつい試合だった。久しぶりの優勝で感激しています。



決勝戦 下出が増地に技有優勢勝



定例総会で挨拶する阿南議長(中央)

## 「定時総会」開催される

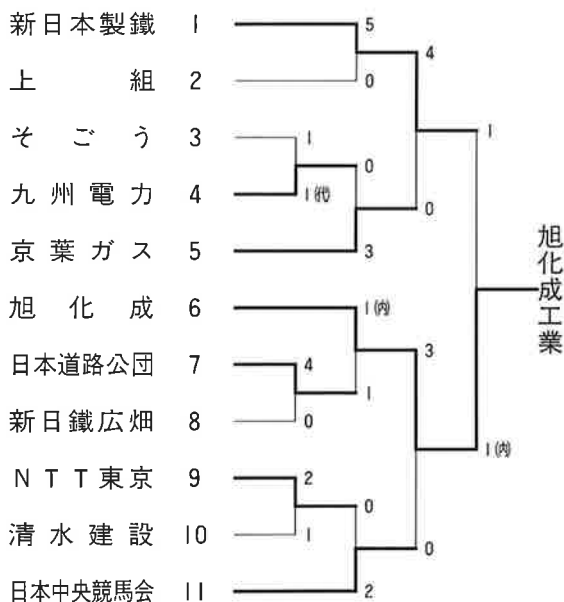
第36回定時総会は、5月31日(土)9時15分から新神戸オリエンタルホテル・9階舞子の間(神戸市)で開催され平成9年度事業の「明日へ！神戸 労働大臣杯争奪第47回全日本実業柔道団体対抗大会」はじめ下記の第1号議案から第5号議案まで満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成8年度事業報告
- 第2号議案 平成8年度収入支出決算
- 第3号議案 平成9年度事業計画
- 第4号議案 平成9年度収入支出予算
- 第5号議案 平成9・10年度役員

なお、定時総会に先立ち理事会が開催され同議案が了承された。

男子第一部成績表

優勝 旭化成工業  
 準優勝 新日本製鐵  
 第3位 京葉ガス  
 第3位 日本中央競馬会



【1回戦】

そごう 1-①代九州電力  
 日本道路公団 4-0 新日鐵広畑  
 NTT東京 2-1 清水建設

【2回戦】

新日鐵 5-0 上組  
 九州電力 0-3 京葉ガス  
 旭化成内①-1 日本道路公団  
 NTT東京 0-2 日本中央競馬会

【準決勝】

第1試合

新日鐵 4-0 京葉ガス  
 ○吉田秀彦 4段 内股 山本兼治 3段  
 ○湊谷知幹 4段 大内刈り 上本裕祥 4段  
 養父直人 5段 —×— 赤井澤一晴 3段  
 ⊖増地克之 4段 技有 山岸裕二 3段  
 ⊖岡泉茂 5段 効果 中嶋一也 3段

第2試合

旭化成 3-0 日本中央競馬会  
 ⊖繁昌久哲 3段 効果 松本昌広 3段  
 ⊖筧原信一 3段 有効 大瀧賢司 3段  
 中村佳央 4段 —×— 藤本博史 3段  
 ⊖下出善紀 5段 注意 佐々木伸也 3段  
 窪田茂 3段 —×— 秋山勝彦 5段

【決勝】

新日鐵 1-①旭化成  
 石田輝也 4段 —×— 窪田茂 3段  
 湊谷知幹 4段 —×— 繁昌久哲 3段  
 増地克之 4段 技有 下出善紀 5段 ⊖  
 ⊖養父直人 5段 指導 筧原信一 3段  
 岡泉茂 5段 —×— 中村佳央 4段

優秀選手

〔男子〕

第一部

下出善紀

(旭化成工業)

養父直人

(新日本製鐵)

第二部

土屋好英

(旭化成工業)

岡泉茂

(新日本製鐵)

第三部

高崎新一

(21世紀エンタープライズ)

横山勇一

(日本道路公団)

第二部

矢野智彦

(東芝)

吉野賢治

(綜合警備保障A)

第一部

菅原教子

(ダイコロ)

立野千代里

(ミキハウス)

〔女子〕

第一部

菅原教子

(ダイコロ)

立野千代里

(ミキハウス)

第二部

保坂裕子

(塩谷建設A)

上野文子

(肥後銀行A)

近藤真也

(大末建設)

生稲良輔

(明送)

柳花美鈴

(ダイコロ)

立野千代里

(ミキハウス)

佐野奈津子

(塩谷建設A)

上野文子

(肥後銀行A)

# 男子第二部

## 東芝軽量級が活躍

90 kg以下が3人もいるスマートなチームもそれぞれスピードと決め技を持っているのも強味だ。たとえば174 cm、78 kgの土屋を準決勝から起用し、総合警備A竹下(180 cm、135 kg)を投げ、上四方固めで得点した。決勝戦では小久保主将(174 cm、86 kg)がダイコロの金建秀(185 cm、150 kg)と両者反則負けに持ち込んだことが東芝優勝へ流れを変えた。12年間も韓国ナショナルチームに君臨し、内股の切れ味は定評があった。今大会も東洋水産の関根と引き分け、日本道路公団の千葉を右送り足払いで一本勝ちしている。だが、小久保戦でダイコロの流れが変わった。

### 優勝監督コメント

東芝・日沖 公監督

一昨年は第2部、昨年は第1部だった。なかなか定着できない。もちろん1部復帰が目標です。みな、自分のそれぞれの仕事があって、いっしょの練習が出来ない。土曜日になると武大に行ったり、日体大に行ったり。しかし軽量級がよく頑張ってくれた。チームとして120%のパワーを発揮できた。



第二部初優勝の東芝チーム

### 【準決勝】

ダイコロ	2-1	日本道路公団
福井宏治 4段	効果	尾辻太輔 3段◎
○金建秀 4段	足払い	千葉大輔 3段
○井上正広 3段	大外刈	永瀬博士 3段
金谷雄 4段	—×—	手塚智貴 4段
小川豊清 3段	—×—	横山勇一 4段

### 【準々決勝】

東芝	4-0	セコム
旭化成	A 0-5	総合警備保障A
東洋水産	1-3	ダイコロ
日本通運	1-③	日本道路公団

### 【決勝】

東芝	2-1	ダイコロ
○矢野智彦 3段	縦四方固	福井宏治 4段
小久保純史 3段	両者反則負	金建秀 4段
斉藤秀二 4段	—×—	井上正広 3段
◎土屋好英 3段	有効	金谷雄 4段
小林弘幸 3段	技有	小川豊清 3段◎

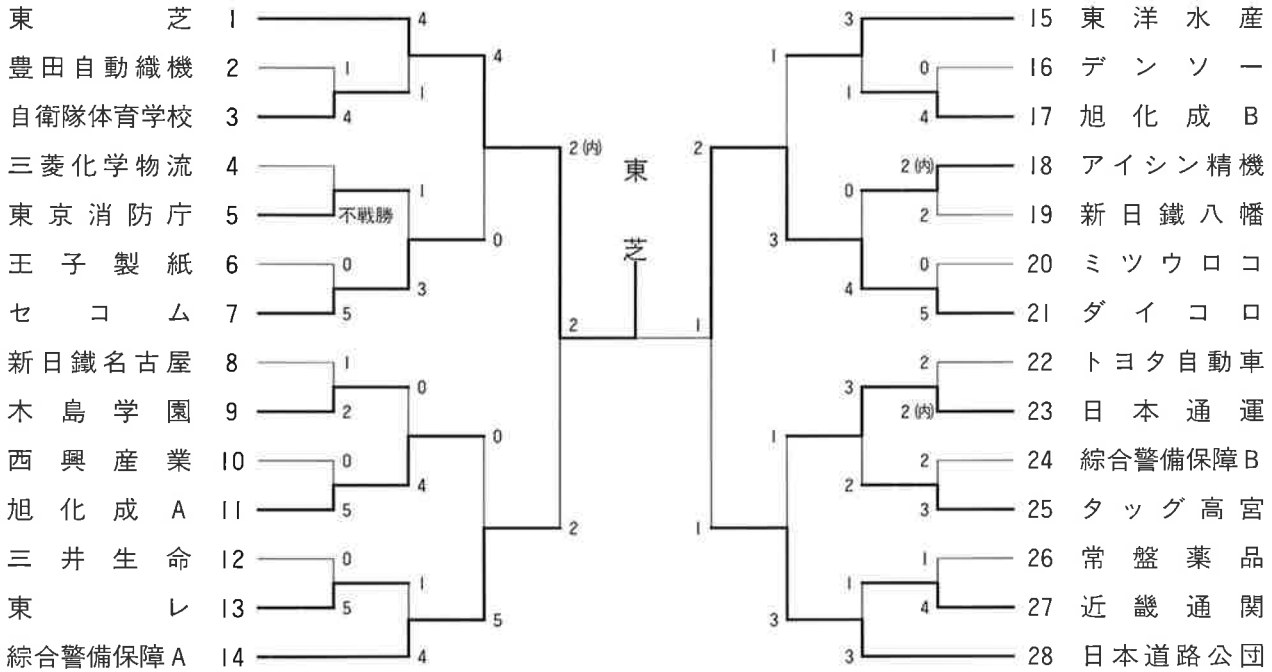
### 【準決勝】

東芝	②-2	総合警備保障A
矢野智彦 3段	警告	吉野賢治 3段△
小久保純史 3段	—×—	金野潤 4段
斉藤秀二 4段	有効	上水研一朗 3段◎
○土屋好英 3段	上四方固	竹下伸一 3段
○小林弘幸 3段	上四方固	南波祐二 3段

### 男子第二部成績表

優勝 東 芝 第3位 総合警備保障 A  
 準優勝 ダイコロ 第3位 日本道路公団

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



### 男子第三部成績表

優勝 21世紀エンタープライズ 第3位 九州電力  
 準優勝 大末建設 第3位 明送



# 男子 第三部

## 新風、二十一世紀E.P

初めて聴くチーム名が7試合最後まで残った。昨年まで福岡市の警備保障会社に勤務していた監督が環境開発グループの同社へ入社。21世紀の安全を提供するというのが新社名で、その要員は柔道部だ。福岡大を中心に集め、新加盟の西日本実業団大会（4月13日、尼崎）の第3部優勝、その勢いに乗った。

### 優勝監督コメント

二十一世紀エンタープライズ

森田 孝監督

福岡市内では一流の九電さんと週二回練習させてもらった。みんな自分の力を信じてやれと励ました。優勝はその結果と思う。



第三部優勝の新星21世紀エンタープライズ



決勝戦 安元をすくい投げで攻める森岡

### 【準決勝】

21世紀エンタープライズ 3 - 1 明 送  
 ○内藤寿是 3段 背負投 山口浩司 3段  
 △川上靖人 3段 警告 和合 徹 3段  
 森岡充祐 3段 横四方固 生稲良輔 3段○  
 高崎新一 3段 —×— 南保徳双 4段  
 ○永井 忍 2段 袈裟固 井上高良 4段

### 【決勝】

大末建設 1 - 4 21世紀エンタープライズ  
 田中英孝 3段 指導 内藤寿是 3段⊖  
 ○近藤真也 4段 払い腰 川上靖人 3段  
 安元 剛 3段 効果 森岡充祐 3段⊖  
 藤田具巳 4段 合わせ技 高崎新一 3段○  
 宮之前廣和 3段 けさ固め 永井 忍 2段○

※トーナメント表(三回戦以上)は前頁(5)に掲載した。

### 【準々決勝】

ダイコロ B 1 - 2 大末建設  
 MICインターナショナル 2 - ② 九州電力  
 日本生命 A 0 - 4 21世紀エンタープライズ  
 明 送 3 - 2 ダイコロ A

### 【準決勝】

大末建設 3 - 2 九州電力  
 ○田中英孝 3段 合技 横川義輝 2段  
 ○近藤真也 4段 内股 高山哲也 2段  
 安元 剛 3段 技有 淵田昌樹 2段⊖  
 藤田具巳 4段 横四方固 倉石豊和 2段○  
 ○宮之前廣和 3段 払腰 古野正豊 1段

# 女子第一部

## ダイコロ大差で初V 豪華な顔ぶれの対決

パリ世界選手権日本代表の52kg級永井和恵(ダイコロ)56kg級の立野千代里(ミキハウス)66kg級木本奈美(住友海上)に加え、アトランタ52kg級銅メダル菅原教子(ダイコ



女子第一部で初優勝を飾ったダイコロ

ロ)61kg級金メダル恵本裕子(住友海上)の計5人が出ている女子は豪華版であった。特に決勝戦の菅原と立野戦はめつたに見られない対決で菅原一瞬の一本勝ちの時は、ガッツポーズを二度繰り返した。立っても寝ても強い小笠原の崩上四方固めを脱し、小内刈でポイントした中橋は、まさに「地獄からの生還」のように思えた。ストレートに3点、ダイコロは前年2位の屈辱を果たし、歓喜の胸上げが続いた。

### 【優勝までの対戦成績】

#### 第1試合

ダイコロ	3	—	1	そごう
横井美穂	2段	引	分	笠崎恭子 初段
○永井和恵	3段	肩	固	栗田由香 初段
中橋治美	初段	効	果	大石愛子 2段○
○藤本哲子	2段	技	有	松尾徳子 2段
○柳花美鈴	2段	払	腰	吉野貴代子 初段

#### 第2試合

コマツ	0	—	5	ダイコロ
衛藤裕美子	3段	横	四方固	菅原教子 2段○
北村文	2段	背	負投	永井和恵 3段○
小取美輪	2段	釣	込腰	中橋治美 初段○
下田仁美	2段	上	四方固	藤本哲子 2段○
国吉真子	3段	大	外刈り	柳花美鈴 2段○

#### 第3試合

住友海上	0	—	2	ダイコロ
真壁友枝	3段	技	有	菅原教子 2段○
上田尾理恵	初段	—	×	永井和恵 3段
恵本裕子	3段	—	×	中橋治美 初段
木本奈美	2段	有	効	藤本哲子 2段○
上野雅美	初段	—	×	柳花美鈴 2段

#### 第4試合

ダイコロ	4	—	1	ミキハウス
○永井和恵	3段	効	果	大森千賀子 2段
○菅原教子	2段	大	外返し	立野千代里 3段
○中橋治美	初段	効	果	小笠原守美 2段
藤本哲子	2段	効	果	吉田早希 2段○
○柳花美鈴	2段	払	腰	増田仁子 3段

### 優勝監督コメント 選手一丸の雪辱戦

ダイコロ・大山昭三監督

実は優勝してハワイへ行こうかと選手が一丸となっていた。ムードは主将の永井がまとめた。ミキハウスさんには勝負へのあせりがあったと思う。その点、うちは和やかなふんい気、相手オーダーも予想通り当たり、それらが大差に結びついたと思う。

### 女子第1部成績表 <リーグ戦>

	①住友海上	②コマツ	③ダイコロ	④そごう	⑤ミキハウス	勝 (1)勝(1)分	負 (1)負(1)分	順位
①住友海上	—	○0-2	△0-2	○3-1	△0-3	2勝	2敗	3位
②コマツ	△0-2	—	△0-5	○3-0	△1-2	1勝	3敗	4位
③ダイコロ	○2-0	○5-0	—	○3-1	○4-1	4勝	0敗	優勝
④そごう	△1-3	△0-3	△1-3	—	△0-4	0勝	4敗	5位
⑤ミキハウス	○3-0	○2-1	△1-4	○4-0	—	3勝	1敗	準優勝

# 女子第二部

## 企業スポーツは柔道が一番

塩谷建設・伊東 宏監督

富山県は2000年国体を控えて強化を始め、とくに筑波大から佐野を主軸に迎えたことで優勝を狙った。チームは創部7年目だが、高岡市の新道場落成式に筑波大を招いたのがきっかけとなった。うちは会長が5段、社長も6段の父子が企業スポーツには柔道が一番ということを始め、社のイメージカラーを作った。しかし当分は第2部でやりたい。



女子第2部優勝の塩谷建設

### 女子第二部成績表

順位	チーム名	勝	敗	差
1	優勝 塩谷建設 A	3	0	3
2	準優勝 肥後銀行 A	2	1	1
3	大阪府警	1	2	-1
4	木山奈央子	1	2	-1
5	白石千恵	1	2	-1
6	酒向綾子	1	2	-1
7	塩谷建設 B	1	2	-1
8	日本生命	1	2	-1
9	塩谷建設 A	1	2	-1
10	西興産業	1	2	-1
11	辰野	1	2	-1
12	バッケン・モーツァルト	1	2	-1

### 【準決勝】

大阪府警 0 - 1 肥後銀行 A  
 木山奈央子 2段 —×— 本田美和子 3段  
 白石千恵 3段 有効 山内 薫 2段⊖  
 酒向綾子 2段 —×— 上野文子 2段

塩谷建設 A 3 - 0 バッケン・モーツァルト  
 ⊖芳岡知加 2段 技 有 岡野舞美 2段  
 ⊖佐野奈津子 2段 警告 野本理紗 初段  
 ⊖保坂裕子 2段 内 股 田中正美 初段

### 【決勝】

肥後銀行 A 1 - 1 塩谷建設 A  
 ⊖本田美和子 3段 背負投 芳岡知加 2段  
 山内 薫 2段 内 股 佐野奈津子 2段⊖  
 上野文子 2段 —×— 保坂裕子 2段

(代表戦)

上野文子 2段 効 果 佐野奈津子 2段⊖

### オリンピックチャンピオン恵本(住友海上)も出場



第一試合 恵本(左)対 下田(コマツ)の対戦

## 「あとがき」

「本大会は、昭和二十六年、戦後の復興に関わる産業界から、鉄鋼・繊維・電気業界を中心に二二チームが参加して開催されました。その後わが国の経済成長とともに各産業分野が発展を遂げてきましたが、各社で採用された柔道人は社業に精励すると同時に、実業柔道の発展に取り組んで参りました。その結果、今回は幅広い産業分野から一三〇を超えるチームの参加をみる充実した大会に成長するに至りました。」

オリンピックやその他数々の国際大会における選手の活躍に象徴されるように、実業柔道のレベルは年々向上しており、今やわが国柔道躍進の推進役としてその役割はなお一層重要になって参りました。

本大会に出場される選手諸君は、このような認識に立ち、実業柔道の掲げている理想と目的の実現に向け、日頃鍛えた練習の成果を如何なく発揮され、正々堂々の試合を展開されまことを期待致しております(齋藤裕会長あいさつから抜粋)。

今回は、齋藤会長の期待を超える充実した素晴らしい大会であった。

恵本裕子選手はじめオリンピック、世界選手権、全日本選手権大会などでメダルを獲得した多数の選手たちが出場、活躍した男子第一部決勝戦はじめ手に汗握る緊迫した熱戦が随所で展開され観る人々を魅了した感動を与えた。

本大会の成功にご支援いただいた神戸市、兵庫県柔道連盟、関係諸団体・各位に深く感謝申し上げます。

事務局長 村井正芳記

発行日 1997年6月20日  
 発行人 全日本実業柔道連盟  
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸  
 印刷 ダイコロ株式会社